

平成 30 年度 山岳科学センター全体報告会

主催：筑波大学山岳科学センター

日時：平成 31 年 3 月 6 日（水）、3 月 7 日（木）

会場：筑波大学 第二エリア 総合研究棟 A

メイン会場 A110 公開講義室

ポスター会場 A107 プレゼン室、エントランスフロア

会議室 A108 資料閲覧室（外部アドバイザー）、A205 会議室

3 月 6 日（水）

時 間	プ ロ グ ラ ム
12:00～	受付（A110 室入り口）
12:30～12:40	開会・センター長挨拶（A110 室）
12:40～13:55	プレナリー講演（3 題）（各発表 20 分+質疑 5 分）
(12:40～13:05)	久田 健一郎（地球）「井川演習林の地質学的魅力」
(13:05～13:30)	大澤 光（生物資源）「強風（フェーン）時における融雪水の浸透プロセス」
(13:30～13:55)	安立 美奈子（環境）「菅平のアカマツ林における土壌呼吸速度および樹液流束速度の観測」
13:55～14:05	休憩
14:05～15:10	機能強化推進費報告（各発表 8 分+質疑 2 分、旅費は 5 分）
(14:05～14:15)	上野 健一（地球）「菅平林間タワーを利用した森林微気象モニタリング体制の構築」
(14:15～14:25)	立花 敏（資源）「山岳地域におけるリスク管理と森林災害の軽減に向けた森林管理の在りように関する研究課題の抽出」
(14:25～14:35)	呉羽 正昭（地球）「トレッキング・ツーリズムの特性解明に関する実証的・理論的研究」
(14:35～14:45)	廣田 充（環境）「菅平高原実験所内二次林における長期モニタリングの拡充」
(14:45～14:55)	山中 勤（地球）「中部山岳域における長期降水・河川水同位体モニタリング」
(14:55～15:05)	出川 洋介（生物）「長野県下の味噌玉を介す生産に関わる微生物調査と新規有用微生物の探索」
(15:05～15:10)	田中 健太（生物）「全生物群生物多様性目録に関連した、環境研究総合推進費のための打ち合わせ」（旅費）

15:10～16:10	ポスター発表（コアタイム）※7日 12:45 までに回収願います
16:10～17:00	各種会議 外部アドバイザー会議（A108 室） 技術職員会議+サブネットワーク委員会合同会議（A110 室） 広報委員会（A110 室） 教育部門（A205 室） 地域連携委員会（A205 室）
17:30～19:30	懇親会（二学小食堂）脚注*1 参照

*1 懇親会費用（教職員 3000 円，学生 1000 円）は、報告会受付時に集金します。

3月7日（木）

時 間	プ ロ グ ラ ム
09:00～09:40 (09:00～09:10) (09:10～09:20) (09:20～09:30) (09:30～09:40)	各ステーションの事業報告（4件×10分 質疑込み） 菅平高原実験所 八ヶ岳演習林 筑波実験林 井川演習林
09:40～10:30 (09:40～09:50) (09:50～09:58) (09:58～10:06) (10:06～10:14) (10:14～10:22) (10:22～10:30)	委員会等報告（各8分、技術+サブネットは10分、質疑込み） 技術職員会議およびサブネットワーク委員会 広報委員会 TRIOS-年次報告書-ウェブサイト連動システム 報告会準備委員会 教育部門 地域連携委員会
10:30～10:40	休憩
10:40～12:30	全体会議 ・部門の活動について ・外部資金獲得について ・その他
12:30	閉会

■ポスター発表 (計 22 件)

ポスターは A0 縦。ただし、縦 153cm・横 120cm に収まれば掲示可。

1	雲仙普賢岳における崖錐発達の実態と土石流発生との関係 ○北本 楽(山岳科学学位プログラム)、篠原慶規、經隆 悠、Christopher Gomez、堀田紀文、酒井佑一、坂本実紀、山川陽祐
2	大井川上流部付加体堆積岩地域を対象とした水文地形特性の検討 ○輿水康二(山岳科学学位プログラム)、山川陽祐、北本 楽
3	Source mechanism of the Mw 7.9 2015 Nepal earthquake in relation with the Himalayan topography ○奥脇 亮(地球進化科学専攻)
4	最終氷期以降のスイスアルプス(マッター谷)における地形変動史—Be10 露出年代法を用いた解析— ○木附貴哉(山岳科学学位プログラム)
5	山地源流域の湧水における滞留時間と全菌数の関係—地下水学と微生物学が拓く水環境のフロンティア— ○辻村真貴(環境)
6	草原の時間的連続性が植物・蝶類群集に与える影響:3 地域での実証 ○井上太貴(山岳科学学位プログラム)、矢井田友暉、上原勇樹、勝原光希、河合純、關岳陽、高島敬子、宮本和、山本裕加、丑丸敦史、田中健太
7	低密度ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> における餌植物嗜好性とその季節・年変動 ○河合純(山岳科学学位プログラム)、井上太貴、關岳陽、山本裕加、宮本和、田中健太
8	標高 0~3000m に分布するミヤマハタザオ集団の発芽と初期成長特性 ○芳澤あやか(山岳科学学位プログラム)、關岳陽、田中健太
9	ドローンによる草原生植物の花の検出 ○山本裕加(生物学類)、徳永幸彦、田中健太
10	山岳森林研究における UAV と QGIS の活用可能性 ○北川 徹(持続環境学専攻)
11	How to hack data loggers on the Internet ○徳永幸彦(生物)
12	山岳(森林)バイオマスの総合的な利活用へ向けて ○守屋繁春(理化学研究所)
13	ゲノムワイドな SNPs による異質倍数体重の集団遺伝構造の検出:モデル倍数体植物ミヤマハタザオを例に

	○平尾 章(生物)、恩田義彦、畠山剛臣、Timothy Paape、清水理恵、清水健太郎、田中健太
14	Local-scale genetic structure and kinship in the sleeper goby, <i>Eleotris oxycephala</i> , an amphidromous migratory fish, in Sagami-gawa River System, Japan ○Uchu Yamakawa(生物科学専攻), Ryosuke Imai, Yoshihiro Tsunamoto, Koetsu Kon, Yoshihisa Suyama, Leanne Kay Faulks and Yoshiaki Tsuda
15	ダケカンバの遺伝構造と集団動態の歴史 ○加藤朱音(生物学類)、湯本景将、今井亮介、齊藤陽子、津田吉晃
16	山岳から海洋まで世界各地の色々な生物の集団遺伝構造:千曲川で急増しているコクチバスの遺伝構造と集団動態 ○中島颯大(生物学類)、今井亮介、Miles Peterson、齊藤陽子、坪田秀彦、石濱史子、Faulks Leanne Kay、北野 聡、津田吉晃
17	長野県菅平高原におけるエゾハルゼミの生活史特性および遺伝構造の評価 ○湯本景将(生物学類)、神戸 崇、加藤朱音、今井亮介、山川宇宙、齊藤陽子、津田吉晃
18	山岳から海洋まで世界各地の色々な生物の集団遺伝構造 ○津田吉晃(生物資源)
19	Predicting Site Index for Teak Plantation Management under Climate Change in Java, Indonesia Prasetyo,E. (生物圏資源科学専攻), Matsui, T., ○Tsumura, Y., and Tsuyama, I.
20	Genetic diversity & Population structure of the endangered species (<i>S.platyclados</i>) in Indonesia revealed by ddRAD-seq Sawitri (生物圏資源科学専攻), ○Yoshihiko TSUMURA, Naoki TANI
21	青葉山スギ個体群の集団遺伝学的解析 小沼佑之介(生物資源科学専攻)、内山憲太郎、木村恵、○津村義彦
22	国内3地点より得られたヒカリモの形態学的特徴と系統関係について 蛭田 理美(生物学類)、中山 剛、○石田 健一郎

報告会準備委員会：田中健太、山川陽祐、池田敦、立花 敏
事務担当：MSC 事務室（坂本、中嶋）

■会場（総合研究棟 A）へのアクセス

公共交通機関をご利用の場合、つくばエクスプレス・つくば駅から、筑波大学循環バス（右回り、左回りのいずれも可）に乗り、「筑波大学中央」で下車して下さい。

キャンパスマップ 中地区

